

全科協ニュース

URL <http://jcs.m.kahaku.go.jp>

全国科学博物館協議会 ☎110-8718 東京都台東区上野公園 独立行政法人国立科学博物館 Tel.5814-9857 Fax.5814-9898 平成16年3月1日発行 (通巻第195号)

特集 自己点検を実施して (財)日本博物館協会「使命・計画委員会」での取り組み

兵庫県立人と自然の博物館(ひとはく)企画調整室長 田原 直樹

1. 博物館への逆風

現在、博物館は困難な状況に直面しています。厳しい財政事情を反映して全国各地で博物館の統廃合についてのニュースを耳にするようになってきました。中でも関係者に衝撃を与えたのは、博物館新設計画に対して地元から反対の声が上がったという事実です。これまで博物館は文化振興の拠点として建設が進められ、歓迎されることはあっても反対はまず考えられませんでした。これまで築き上げてきた博物館の存立基盤が揺らいでいる、と感じた人は少なくないのではないのでしょうか。

わが国に近代的な博物館が誕生して以来、おそらく初めてと思われる、こうした事態に対して、(財)日本博物館協会(以下「日博協」)では、多くの館の協力を得て、博物館の存在意義を再検討し、これからの博物館のあるべき姿を模索してきました。その成果は、博物館が果たすべき役割や今後の取り組み姿勢を示した『「対話と連携」の博物館』と、博物館の活動指針を示した『博物館の望ましい姿—市民とともに創る新時代博物館』(以下「望ましい姿」)に取りまとめられています。

これらの文書では、各博物館が自らの使命、つまり存在理由や目的、活動内容を明確にし、使命の達成に向けて中長期的な計画を策定することを強く提唱しています。「使命」とは、やや耳慣れない言葉かもしれませんが、博物館の任務や責務をより強調する意図を込めて使われたものです。今年度は、これまでの流れを受けて、それぞれの博物館が自己点検を行って自館のおかれた状況を認識し、それに基づいて実際に使命と計画を形にするための手引き作成を手がけてきました。ここでは、そのために設置された「使命・

計画委員会」(以下「委員会」)の取り組みを紹介したいと思います。

2. なぜ使命を明確にする必要があるのか

なぜ使命と計画が必要か、誰にでも納得してもらえるように説明するのは意外に難しいものです。特に使命については、既に多くの博物館で明文化された設置根拠をもっていると思います。国立であれば法律、地方自治体であれば設置条例、財団法人であれば寄附行為などの形をとっているでしょう。さらに、設立時の基本構想や、館長によって書かれた基本方針など、博物館の使命に関連する文書は決して少なくはありません。

にもかかわらず使命にこだわるのは、使命を一般の人々の共感を得られるような形で表明することが博物館に大きなメリットをもたらすと考えるからです。設置条例は、法文特有の表現である上、内容も普遍的で抽象的であることが多く、一般の人々の理解や共感を得ることは難しいと思われます。館長によって書かれた基本方針など、わかりやすく書かれているものがあっても、明確に使命と位置づけられ、多くの人の目にふれるようになっていなければ、使命を表明したことにはなりません。現実には、きちんとした形で使命を表明している館はほとんどないのが実情です。

「委員会」では、設置条例や寄附行為などにもとづきながらも、自らの使命を、利用者をはじめ広く社会に理解され、望むらくは共感してもらえるような形で明文化したものを「使命書」と呼び、すべての博物館が「使命書」を作成し積極的に公表することを提唱しています。それによって、はじめて自館の個性や独自性にもとづく社会的価値をアピー

ルできるようになり、社会の中での位置づけを明確にすることができると考えているからです。つまり「使命書」を博物館の社会的な存在証明と位置づけているのです。

3. 計画をたてる意義

使命が明確になれば、おのずと目標が明確になり、そこに到達するための戦略が見えてきます。どのような活動をするればよいかの見通しがきくようになり、博物館の資源であるヒト、モノ、カネを有効に活用するための計画をたてることができるようになります。「委員会」では、「使命書」の実現のために、5年から10年程度先を見通しながら目標を設定し、それを達成するにはどのような方法を採用するかを定めた「中長期計画」を策定することを薦めています。

「中長期目標」は、思いつきや行き当たりばったりの運営を是正し、博物館運営をより効率的で効果的なものにするだけでなく、外部に対して活動の透明性を高め、説明責任を果たすことを容易にします。

このように、使命・計画づくりは、博物館に多くのメリットをもたらします。作成された「使命書」「中長期計画」が博物館運営に寄与することはもちろんのこと、作成の過程でさまざまな課題を浮き彫りにし、博物館について考え議論しコミュニケーションを深めるきっかけを提供します。そして、何よりも館員の士気を高め、ひいては利用者や設置者の理解や支持を得ることにつながる点に、使命を確立し、計画を策定することの最大の効果があります。

4. 使命・計画づくりは自己点検から

使命・計画を作成するためには、自館のおかれている状況を把握することが不可欠です。「委員会」では、「望ましい姿」を用いた自己点検を薦めています。「望ましい姿」は各博物館が、自己点検・評価の目安として活用し、改善に取り組むことを想定してつくられたもので、中に盛り込まれた項目はチェックリストとして活用できます。自館の現状は良好か、強みはどこになるか、弱点はどこにあるのかを見分けるための、博物館の「健康診断」「体力測定」の物差しとなるのです。「委員会」では、より使いやすい自己点検のツールとなるよう、「望ましい姿」に基づいたアンケート票を作成しました。これに答えることで一応の自己点検をすることができます。

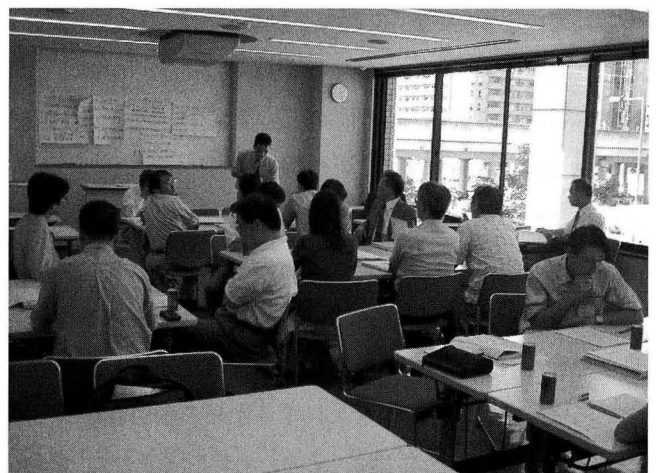
こうして自館の状況認識が終えると、いよいよ使命・計画づくりにかかるわけですが、詳細は現在作成中の手引きを参考にいただければと思います。

5. 自己点検改善支援ワークショップの試み

「委員会」では、それぞれの博物館が自ら自己点検を行い、使命・計画づくりに取り組むことを想定していますが、実際には自館だけではなかなか実行できないのが実情ではないかと思います。「使命書」や「中長期計画」の検討は、博物館の本質に関わる課題であるため、取り組むには覚悟が必要となりますし、それなりの時間もかかります。問題を感じていても、自ら言いだすには後込みしてしまいがちです。

そこで、まずは一步を踏み出す一助となるよう「自己点検改善支援ワークショップ」（以下「ワークショップ」）の実施を考えています。これは、博物館の専門家である日博協の委員が、各博物館を訪れ、進行役となり、当該館の関係者と共に、1日ないし半日で集中的に討議し、自己点検を行い、「使命書」と「中長期計画」のたたき台にあたるものを作り上げるといえるものです。博物館専門家（日博協委員）の役割は、指導・助言というより、「ワークショップ」に参加する博物館関係者の問題意識や意欲を引き出す産婆役となります。

今年度、実際に、館種・設置者・規模の異なる5館（横浜市歴史博物館、長野県立歴史館、柿衛文庫、大和文華館、川崎市青少年科学館）で試行した結果、各館から有益であると評価されました。もちろん、「ワークショップ」をすればそれで終わりというわけではなく、使命・計画づくりへのきっかけとなるに過ぎません。しかし、どんなに転がりやすい玉でも、誰かが押さなければ動き出さないように、どうやって始めるかが問題なのです。活用していただければと思います。



「博物館の望ましい姿」による自己点検評価を実施して

川崎市青少年科学館 成川 秀幸

【川崎市青少年科学館について】

川崎市青少年科学館は川崎市の丘陵部にある、生田緑地という比較的自然の良く保全された公園の中に設置されています。1971年にプラネタリウムのみの施設として開館しましたが、プラネタリウムの投影業務のほかに緑地の自然を調査し、生田緑地を訪れる学校団体や市民にその情報を提供するようになりました。そのような実践があったため、1982年の新館建設時に、川崎市域を中心にした自然を扱う登録博物館になりましたが、館名はそのまま変更されませんでしたので、館名からは活動内容が見えにくくなっています。プラネタリウムの公開業務と並行して、市民参加型の自然調査を地道に実践し、今年で21年目を迎えています。

その間、毎年100名以上の市民がボランティアとして、植物班や野鳥班などに分かれて活動しています。その各班の活動日数は、年間延べ約500日、年間活動人数は延べ約2000名に達し、市民による活発な調査活動、及び資料の整理・保管活動に支えられた博物館活動を展開しています。最近では、このような活動を通じて力を付けた市民による自然観察会や、科学実験教室等、教育普及活動にもボランティアが活躍するようになり、館の職員だけでは不可能なアウトリーチ的な活動も可能になってきています。プラネタリウムに関しても、単に来た人が観るだけのプラネタリウムではなく、子どもや市民が番組作りや投影に参加できる、「観るプラネタリウムから使うプラネタリウムへ」という活動を行っています。このように、当館はここ20年間にわたり、「市民が支え、市民が高める、市民のための博物館」という博物館運営を行っています。

【自己点検について】

2003年3月、日本博物館協会より「博物館の望ましい姿、市民と共につくる新時代博物館」が発行され、これに基づいて、今回、幸運にも日本博物館協会の支援を受けてワークショップを開催し、自己点検を行うことが出来ましたので、その結果を報告します。

開催日は2003年10月16日の午前10時から午後4時まで行いました。日本博物館協会から大阪市自然史博物館の那須

館長と、国立科学博物館の守井係長が、司会進行役で来館頂きました。出席者は設立者の行政側から、川崎市教育委員会生涯学習部文化財課長と主幹の2名、運営を委託している博物館振興財団から事務局長1名、利用者を代表してボランティア6名、職員は事務系2名、学芸系7名、それに館長が加わり19名でした。

具体的内容と進め方については、まずグループに分かれて、参加者が自己紹介を行いました。続いて全員の意識を統一するために自己点検アンケートをグループごとに大急ぎで完成させました。アンケートについては事前に参加者に渡し、目を通して来てもらっていますので、手際よく進みましたが、それでも昼まで掛かりました。

午後からは館の強いところ、弱いところ、チャンスとピンチということでグループごとに館の現状分析をしてもらいました。次に、その分析に基づき短期計画、中期計画、長期計画で取り組むべき項目を各グループから挙げてもらいながらまとめていきました。最後に使命書を作るということで、館の使命を箇条書きにし、各グループから提案してもらおうというものでした。結果としては、司会進行役をしてくれた守井さんのファシリテーションが素晴らしく、また、的確で説得力のある那須館長のお話が素晴らしく、参加者からは大好評のワークショップでした。

【自己点検を行なって】

この取り組みを通じて感じたことは「博物館の望ましい姿」が配布されても、私も含めて職員で回覧するだけで熟読していませんでした。しかし、今回の機会を通じて全員熟読できたことや、利用者である市民もこれを手にし博物館への認識を新たにすることがあります。さらに、アンケートによる自己点検は、博物館協会から送られてきた時は担当係長が回答し、ほかの職員は目を通していませんでしたが、今回の試みを通じて全員が理解できたことが上げられます。私どもの館長は「博物館の望ましい姿」は、これからの博物館の動向を左右するものと重要視していましたので、素晴らしい研修が出来たと思っています。次に状況分析、館の今後の重要課題、使命書を作るという作業を通



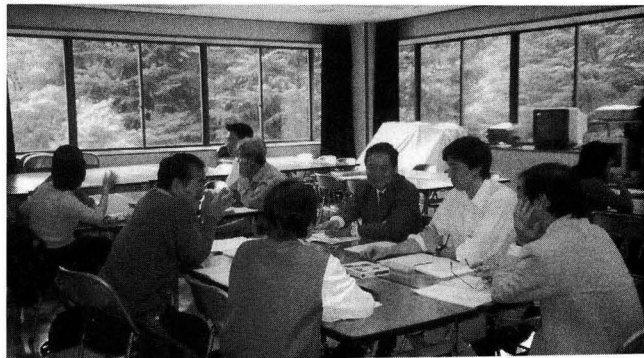
自己評価(1)

して、職員や市民の思いが浮き彫りになり、私たちもこの試みを通して全員良い刺激を受けました。市民の皆さんも「時間のたつのも忘れるほど素晴らしいワークショップだった。大変勉強になりました。」と言って帰り大変好評でした。このことから、館のコンセプトや運営ミッションを利用者に、きちんと知らせておくことも大切なことだと感じました。

総じてこのような試みは、やることが大切だということ強く感じました。また、自主的に毎年実施し、毎年状況の変化を組み入れながらローリングして行かなければ意味のないものであると感じました。そして、やりっ放しにするのではなく、洗い出された課題については予算要求に反映して行く等、考えられるすべてのことに手を打って行くことが大切だと思いました。

【自己点検後について】

私共の館にとって今回のワークショップはきっかけであって、継続していくことが大切ですと、先に述べさせて頂きました。その場合、毎年同じ点検項目もあるでしょうが、年々館の活動そのものを深めていくものでなければ意味がありません。そのためには調査研究活動を含め、すべての



自己評価(2)

事業について企画段階で成果目標、達成目標を定めること。そして事業報告には、その目標に対してどうであったかを必ず点検評価し、だから次にはどうするかという展望を記入する、というようなフォーマットを定めた用紙を用意し、それに記入したものを1枚ずつ積み重ねて、年度途中、年度末にそれらを見直していくというようなことが必要だと思いました。

・目標を定める→例えば募集目標→達しなかったのはなぜか、オーバーしたのはなぜか、あふれた人へのその後のアプローチは、あるいはフォローはどうしたとか。

・成果目標、達成目標に対して、どのような工夫をして、努力をして、どうなったか。目標達成した人たちへの次のアプローチは、→そのための全体計画はどうか、とかです。

このような取り組みを早速実行しなければと考えております。

実は、このような自己点検評価をしておくことは、館の内部的な運営ばかりでなく、今後ますます強くなると考えられる外部からの圧力に対しても、きちんと説明し納得させる資料になると思いました。

美術

は く 製

〈各 種 生 物〉
剥製・骨格標本・レプリカ
加工／販売／リース

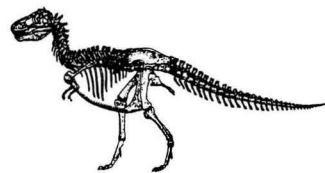


有限 東洋近代美術研究所

製作所 〒272-0816 ☎047-337-5678
千葉県市川市本北方2-18-1 FAX 047-338-1978

本社 〒272-0834 千葉県市川市国分5-3-25 ☎047-374-1564

※世界の化石・
鉱物・恐竜・化石
人類・動物骨格
標本及び模型の
輸入専門業者



ティラノサウルス・REX

株式 ゼネラル サイエンス
会社 コーポレーション

〒107-0052 東京都港区赤坂3-11-14 赤坂ベルゴビル802
TEL 03 (3583) 0731代表 FAX 03 (3584) 6247

『博物館の望ましい姿』による自己点検の試行

横浜市歴史博物館 前沢 和之

経過と目的

日本博物館協会（以下、日博協）は、外部からの事業評価の実施に備えて博物館が業務の自己点検を行う上での指針として、2003年3月に『博物館の望ましい姿市民とともに創る新時代博物館』（以下、『望ましい姿』）を作成し関係者に配布した。これは同協会がまとめた『「対話と連携」の博物館－理解への対話・行動への連携－』（2000年12月）を基本に、各博物館がそれぞれの特色を活かした活動を行い、その結果として博物館全体の総合的な力を向上・発展させることを期待して作られたものである。

その上で同協会は、『望ましい姿』を活用して各博物館が自己点検を実施する際の支援体制を整えるため「博物館の活性化・効率化に資する評価の在り方委員会」委員による支援の実践体験を計画した。そして、2003年9月11・12日に横浜市歴史博物館（以下、歴博）を会場としてそれが実施されたが、これは博物館側にとっては業務の自己点検の試行となった。ここでは今後への参考を目的として、いくつかの感想を加えながらその実施経過と内容を紹介してみたい。

実施までの準備

日博協からの要請を受けた後、歴博内で受け入れの可否と実施の方法について、次のような検討と準備を行った。

- (1) 担当者の選定（庶務係長・企画調整係長・学芸課長）
- (2) 日博協担当委員からの説明により概要を把握 → 受け入れを内定
- (3) 受け入れ説明資料作成 → 管理職会議等で説明 → 各課での説明と協力要請 → 受け入れを決定
- (4) 実施原案を担当者で検討し日博協委員と調整 → 参加者の募集・依頼と選定 → 当日の業務予定との調整 → 実施内容を各部署に通知
- (5) 日博協へ事業・組織・施設などの資料を提出 → 参加者へ資料配布（『望ましい姿』を含む）

注意したこと

こうした自己点検は、日博協関係者と歴博の双方にとっ

て初めての経験であった。ただ一人、委員の佐々木秀彦氏（江戸東京たてもの園学芸員）がご自身の研究と工夫で編み出した方法での実践体験をもっていた。そこで、今回もそれを基本に、財団による運営など歴博の実情に合わせて手直した実施計画を立てた。その要点は次のようになる。

- (1) 参加者：学芸課職員、業務に直接係わる総務企画課員、活動に参加している市民（ボランティア・古文書の会など）、財団の事務局と各施設（開港資料館・埋蔵文化財センター）職員、設置者（市教育委員会職員）。
- (2) 進め方：①日常業務に支障を生じさせない（業務連絡と全体の進行状況を点検する職員を配置、全期間の参加を義務づけない）。②参加者には自由に発言させる（内部批判・相互批判・苦情が自己点検の糸口となる）。

自己点検の進め方

自己点検の試行の参加者は歴博側21名・日博協側8名で、4班（各5～6名＋委員1名）に分かれて次の日程で点検を行った。

- 11日午後：①実施内容の説明と質疑 ②班づくりと自己紹介 ③アンケート回答 ④アンケート結果の報告
- 12日午前：①アンケートに基づく施設調査（展示室・収蔵庫など） ②問題点と課題の整理
- 12日午後：①短中長期課題の抽出と発表 ②強みと弱み・チャンスとピンチの項目の抽出と発表 ③使命の抽出と発表および集約（投票による） ④総括と意見交換

内容と結果

点検作業で各班から出された意見は、次のようであった（アンダーラインは複数の班から出されたもの）。

(1) 問題点と課題

①内部の意志の疎通（部署間の連携の緊密化）②目的と経営方法（使命・計画の確立、事業内容の充実、目標の数値化）③財団施設との連携（施設ごとの対象分野の明確化、適正な人員配置）④利用者への対応（市民要望とのズレ、学校連携の強化）⑤設置者との関係（意志の疎通が希薄）



(2) 強みと弱み

①立地(駅から近い↔市域の北端にある、郊外にあり“港”のイメージが無い) ②付帯施設(遺跡公園が隣接する) ③対象地域(人口が多い、学校利用が多い↔丁寧な対応ができない) ④財団運営(施設間の企画連携が少ない、組織としての危機感が薄い)

(3) チャンスとピンチ

①立地(競合施設に比べて不利) ②対象地域(人口が増えつつある、郷土史への関心の高まり、学校の来館が多い、学校の総合学習実施↔学校対応の質) ③財団運営(大幅な人事異動があった↔ピンチすら認識が無い)

(4) 目標(短・中・長期)

①活動内容:企画展の充実(解説シートの更新など)、講座回数を増やす、学校のカリキュラムに対応したプログラム開発、エドゥケーターの採用と育成、学校連携の強化(インターネットによる予約受付・教員研修など)、広報方法の改善、遺跡公園の活用の拡大、異分野との連携、ホームページの魅力増大化、ITの導入と充実

②施設設備:常設展示の改善・リニューアル(可変的展示・通史が見られる・開港以外の横浜を)、企画展示室の大型化、学校対応施設の設置、駅からの案内板の整備

③財団運営:連携の強化(課を越えた会議など)、戦略目標の樹立、組織の再編と人事異動(適正な配置など)全体での調査研究体制の整備、学芸課の改革、入館料手段の見直し(無料化など)、QCサークルの立ち上げと恒常化

④利用者対応:市民サポーターづくり(サポーターサミットの開催など)、市民グループとの連携、ボランティアの充実

⑤設置者対応:人的資源の増資を要望、18区に博物館をつくる

(5) 使 命

①開港以前のヨコハマを広く知ってもらう(「もうひとつの横浜」を伝える、開港以外にも横浜はあった)。← 条例により「開港期までを中心とする横浜の歴史」を対象としているため。

②歴史の実感を目指して(歴史をもっと知りたい人の好奇心を満たす、体験できる博物館)← 隣接して遺跡公園があるため。

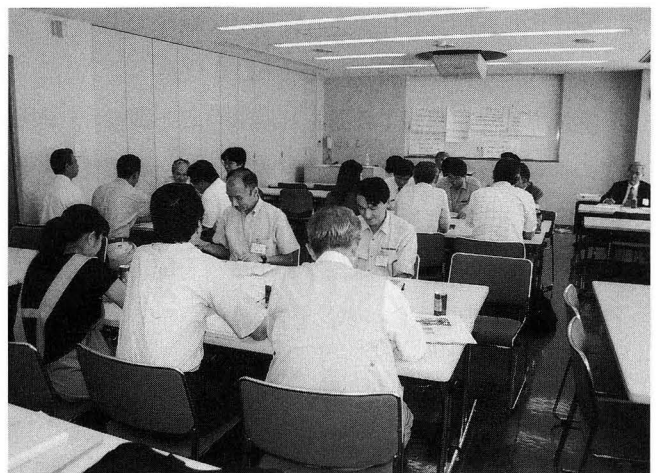
③歴史を“楽しむ”人の裾野を広げる(訴えかける博物館、自分だけの博物館、暮らしの歴史を教育に)← 入館者は児童生徒と高齢者が多いため。

④大都市タイプの普及活動を(モデルケースとして)

成果と展望

何をどうするのか誰も知らない、外部の博物館関係者に内情を曝すことになるなど歴博側には戸惑いがあった。また、委員の一員でもあり歴博の窓口となった筆者には、せっかく開催したものの参加者が白けてしまい、時間と労力を無駄にしたと感じたとしたら、職場に相互不信感をもたらした日常業務にも悪影響を及ぼすのではないかと不安が最後までつきまとった。しかし、一旦始めてみるとはじめ戸惑っていた参加者もすぐに積極的に発言するようになり、結果としてこれらの懸念は杞憂に終わった。その理由として、歴博と財団が直面している経営上の課題があること、職員や関係者の間に日頃から自由な形で意見交換をする場が必要との思いが強くあったことがあげられる。

今回の試行での成果には様々なものがあり、未だ総括を終えていない状況である。大局的な視点からの成果と展望として、次のことをあげておく。



- (1) 博物館固有の課題があからさまになった。⇒参加者が
共通認識をもった。対処の方向が見えてきた。
- (2) 実務面＝博物館・経営面＝財団とそれぞれの課題が区
分できた。⇒対処を担当する部署を決められる。
- (3) 歴史博物館に共通する問題点が含まれていた。⇒多く
の博物館で自己点検の事例を重ねることで、対処への道
筋が見えて来る。
- 最後に、今後自己点検を行う場合の参考として次の意見
を述べておきたい。
- (1) 発言のきっかけづくりや意見の展開に際して、他館の

事例や体験の紹介が大きな役割を果たす。

- (2) 意見の集約にあたって、部外者（特に実務担当）の見
方や意見が加わると内容に客観性と現実味が増す。
- (3) 外部の博物館関係者が加わると、参加者の間に一定の
緊張感が生まれて、感情的な発言や議論の紛糾を自制す
る効果がある。
- (4) 『望ましい姿』には、設置者・館種・規模の違いを超え
て自己点検に必要な事柄が包括的に示されている。各博
物館は、この中から実情に応じて必要なものを選んで点
検項目にあげるのが便利である。

歴史体感

ロボットが誘う、歴史伝説の世界

伝統文化の保存と伝承を目的とした施設、
建設にも積極的に参加しております。



◀閃光に驚き、バランスを
失う武士たち。



▲刀が振り下ろされるその瞬間、目が眩むほどの閃光が走る。

佐渡歴史伝説館／日蓮聖人 佐渡法難

文化施設・商業施設・動刻・ディスプレイ・デザイン・設計・制御演出・施工

kokoro
株式会社 ココロ

〒205-8556 東京都羽村市神明台4丁目9番1号
TEL: 042-530-3939 FAX: 042-530-4050
<http://www.kokoro-dreams.co.jp/>

ロンドン自然史博物館、要らなくなった什器類等をリサイクルへ

ロンドン自然史博物館はモノを大事に保存してきたことは世界的に有名なが、開館以来、国有財産である什器類や備品を大事にしてこなかった悪い評判も当地にあることはわが国ではあまり知られていない。

そのロンドン自然史博物館であるが、従来は廃棄処分の対象になった壊れたり古くなったりして使われていない什器や備品を、今後リサイクルを目的に、ロンドンの NPO 法人の「グリーン・ワークス」(代表: コリン・クルックス)に引き取ってもらう契約を結んだ。この決定は、2003年4月に同館がイギリスの博物館で初めて「ISO 14001」の認定を受けた後の具体的な行動の一步だ。手始めに合計で約600㎡の絨毯がグリーン・ワークスに譲渡された。同館からグリーン・ワークスへのリサイクル品はすべて無償で譲渡されており、ディスカウント価格で再販されたり、財源が豊でない NPO をはじめ、ボランティア団体、病院や SOHO、個人に無償で提供されている。「自然史博物館は、これからわが国の博物館界において、リサイクル運動のリーダーになってくれることを期待している。また他の博物館や公共施設が環境政策を決定する際に、大いに模範になるだろう」(コリン・クルックス談)。モノを大事にするイギリスの国民性の真髄はここにもあらわれている。

Green-Works.

<http://www.nhm.ac.uk/services/press/items/greenworks.htm>

<http://www.letsrecycle.com/>

ニューブルンズウィック博物館、西ナイル・ウィルスのデータ
データベース整備に、カナダ政府より補助金を受ける

北米で蚊を媒介に広がる西ナイル・ウィルスの脅威が2年前から北米を席卷して以来、カナダの北東部にあるニューブルンズウィック博物館でもニューブルンズウィック州内の各地から蚊の標本がぞくぞくと寄贈され、その数は既に7,000点を超えている。この地域は冬になると気候が極寒になるが、夏は蚊に悩まされる場所としても知られている。しかし蚊の研究で実績が少なかったニューブルンズウィック博物館で、急増した膨大な数の蚊の標本のおかげで、このほどカナダ政府より150,000ドルの補助金を受けて、同館

の蚊の標本をデータベース化する事業に着手した。この補助金は、カナダ政府の連邦生物多様性調査パートナーシップ (FBIP) が推進している蚊の追跡調査プロジェクトの一環で、同館に提供される。このデータベース化によって、ニューブルンズウィックにおける蚊の生態が西ナイル・ウィルスの感染の広がりを読み止めることに期待されている。

<http://www.gnb.ca/0130/english/info-nrelease08.html>

<http://www.gnb.ca/0130/english/info-main.html>

パリ郵便博物館で、伝書鳩に関する企画展が開催中

昔は伝書鳩を飛ばしている様子は、家のまわりで当たり前のように見かけたものだが、今ではもはや郊外に行かないとなかなか見れない。わが国では、伝書鳩は、明治以降特に大正時代から通信の目的で飼育されだし、輸入も伝書鳩の経験が豊富なフランスに頼っていた。旧軍では「軍鳩」と呼ばれ、第二次世界大戦中には軍鳩班という専門の通信隊も組織されていた。また伝書鳩は軍だけでなく、新聞社と通信社でも1950年代まで通信手段として使用していた。当時は一秒でも早く記事やフィルムを自社に届けるための重要な通信手段であり、各新聞社の屋上には鳩舎があり、何百羽の鳩が飼育・訓練されていた。記者も携帯電話やノートパソコンではなく、鳩を携帯して現場に向かったそうだが、

一方、海外では古くから伝書鳩を利用しており、既に紀元前3000年頃にはエジプトで漁船が漁況を港に知らせるために利用していたようだ。西欧諸国では軍隊での伝書鳩の歴史が長いが、今でもイギリスとフランスの一部の僻地では急病患者の血液のサンプルを都市の病院に送るのに伝書鳩が利用されている。

現在パリのモンパルナス街にある郵便博物館で、世界における伝書鳩の歴史を紹介したユニークな企画展『鳩が飛ぶ!』が開催されている。同展では、ローマ帝国の軍隊での利用をはじめ、モンゴル帝国でも東ヨーロッパと東アジアとの間の通信に利用されたことや、普仏戦争(1870-1871年)でフランス軍側で多用し、それに対してプロシア軍側では伝書鳩を襲うハヤブサを登場させたことを紹介している。また両世界大戦と、フランスがベトナムと戦って敗北したインドシナ戦争(1946-1954年)でもフランス軍側で多用された歴史を紹介している。会期は2004年4月17日ま

で。Pigeon vole!

カリフォルニア科学アカデミー、全面改築へ

2003年はサンフランシスコにあるカリフォルニア科学アカデミーにとって創立150年にあたり、その記念事業として全面改築が計画され、現在ゴールデンゲート公園で建っている同じ場所に新しい施設がオープンする2008年に向けて、既に建物の解体工事が始まっている。2004年5月1日に、仮の施設としてサンフランシスコ市中心部のハワード通りに今までの水族館の一部とハンズオンを重視した体験型の小さな展示館が開館する。著名な建築家レンゾ・ピアノによって設計される新しい施設は、水族館、自然史博物館とプラネタリウムによって構成され、延べ面積は約34,000㎡である。総工費3億7,000万ドル。

<http://www.calacademy.org/events/countdown/>
<http://www.calacademy.org/newacademy/index.php>

アメリカ自然史博物館、エキスポラトリウムと提携開始

アメリカの自然史博物館を代表するニューヨークのアメリカ自然史博物館と体験型科学館を代表するエキスポラトリウムは、今まで分野が異なっていたために提携することについては躊躇していたが、このほどその垣根を取り払って、大胆な提携を開始することになった。先ず手始めに、エキスポラトリウムから、「地球の形成」「ローテーション」「鏡と錯覚」「振り子」の4テーマにわたって、35点の体験学習型の展示装置がニューヨークに運び込まれた。会期は2004年8月15日まで。

コベントリー交通博物館が、2004年3月19日に全面改装オープン

コベントリー交通博物館は、イギリスの道路交通に関して、自動車をはじめモーターサイクルや自転車など、世界最大のコレクション数を誇っているが、現在全面的改装を行っており、2004年3月19日に装いを新たにオープンする。総工費7,500万ポンド。この改装で6つの新しい展示ホールが生まれ、年間25万人の来館者が見込まれている。

<http://www.mbrt.co.uk/whats-new/new-dev.htm>

バンコクに「環境とエコロジー」の博物館が2005年に開館

バンコクにある国立科学博物館の分館として、環境とエコロジーをテーマにした博物館が2005年の開館に向けて整備されている。常設展示のハイライトは、屋内に設けられる三つのエコシステムである。「北米大陸の温帯林」「アジア

の熱帯雨林」「極地の平原」。それぞれのシステムでは、温度と湿度がコンピュータで制御されることになっている。同館は、バンコクにあっては、最も高い集客率の観光施設として期待されている。Environment and Ecology Museum

<http://www.nsm.or.th/english/Ecology-and-environment.html>

デンマークの北海博物館で火災発生、欧州最大の水槽に被害

関西大地震は、須磨海浜水族園に少なからぬ被害を与えたことは多くの博物館人の記憶に未だに鮮明に残っているが、ところ変わってデンマークである。2003年12月17日に観光地ヒルスタール市の北海博物館で起こった火災は、欧州最大の水槽「オセナリウム」(4,500トン)に大きな被害を与えた。4,000匹の魚類の多くが死に、中でも来館者の間で人気が高かったマンボウの子ども(体重60キロ)が犠牲になった。Nordsoemuseet, Hirsthals

<http://www.nordsoemuseet.dk/>

モントリオール科学館で、子どもによる手作りの家屋を紹介した企画展が開催中

モントリオール科学館で、市内の小学生と中学生の協働作業で完成した家屋が企画展で紹介されている。原画は小学生が描き、それらを中学生が制作にあたった。30件の家が建てられており、いずれも大人の頭では到底思いつかない創造性豊かなものばかりだ。会期：2004年1月15日から5月1日まで。The House Reinvented.

<http://www.centredessciencesdemontreal.com/>

ロンドン科学博物館で、映画『ロード・オブ・サ・リングズ』開催

世界各地で人気を博している洋画『ロード・オブ・サ・リングズ』(ニュージーランド)を紹介した特別展が、ロンドン科学博物館で開催された。映画の登場人物のコスチューム、メイキャップ、小道具、コンピュータを使った特殊映像の舞台裏があますところ無く紹介された。同展は、ニュージーランドの国立博物館「テ・ハピ・トンガレワ」によって制作され、今後シンガポール、ボストン、シドニーで巡回される。制作費75万ポンド。ロンドンでの会期：2003年9月16日から2004年1月11日まで。

<http://www.sciencemuseum.org.uk/exhibitions/lor-doftherings/>

* (やすい・りょう) E-post: RGYasui@obirin.ac.jp

3月4月の特別展

開 催 館	展 覧 会 名	開催期間
むつ科学技術館	「科学市場」(後援:財団法人つくば万博記念財団)	12月23日～4月11日
仙台市科学館	「おもちゃの科学展」～からくりおもちゃとの出会い～	1月24日～4月11日
山形県立博物館	企画展「館蔵品展」	1月17日～3月14日
	企画展「館蔵品展」	3月21日～6月13日
ふくしま森の科学体験センター	特別展「ナーノの冒険」(ナノテクノロジー解説展示)	1月29日～4月29日
郡山市ふれあい科学館	写真展「星になったチロ展」	1月9日～3月31日
	写真展「惑星状星雲のふしぎ」	4月1日～6月30日
栃木県立博物館	企画展「結城紬―紬織りの技と美―	4月24日～6月15日
	自然系テーマ展「とちぎの自然―環境基礎調査の結果から―	3月13日～6月15日
	人文系テーマ展「おじいさんやおばあさんの子供のころの暮らし」	12月6日～3月31日
	人文系テーマ展「下野の街道と城下町」	2月1日～3月31日
	人文系テーマ展「関東の文人画」	2月14日～3月31日
群馬県立自然史博物館	第21回企画展「地球の贈りもの鉱物資源」	3月20日～5月9日
川口市立科学館	特別展「宇宙へのアプローチ つづけ未来へ2004」	1月31日～3月14日
狭山市立博物館	企画展「永久の眠り―狭山の古墳」	3月13日～6月13日
入間市博物館開館	特別展「からだの中を探検しよう!人体の驚異～」	4月24日～6月6日
埼玉県立自然史博物館	「石のコレクション」	1月6日～3月31日
千葉県立中央博物館	春の展示「持ち込まれたケモノたち―外来動物がおびやかす地域の自然―	3月20日～5月9日
科学技術館	「からくり」展	3月27日～4月4日
国立科学博物館	特別展「スター・ウォーズ サイエンス アンド アート」	3月20日～6月20日
機械産業記念館(TEPIA)	「ロボットと近未来ホーム～日本を元気にする新技術」PART II	1月15日～3月16日
たばこと塩の博物館	開館25周年・リニューアル記念特別展「レイモンド・ローウィー～20世紀デザインの旗手～」	3月13日～5月16日
東京都高尾自然科学博物館	特別展示「標本ができるまで」―製作技術とその歴史―	12月20日～3月28日
多摩六都科学館	開館10周年特別企画アニメ展「夢のとびら～松本零士のコスモワールド～」	3月13日～3月31日
横須賀市自然・人文博物館	企画展示「三浦半島の海藻」	12月2日～4月11日
	特別展示「三浦半島の花と緑」	2月28日～5月31日
横浜こども科学館	開館20周年プレ企画「作ろう!! 惑星観光船」	3月7日～4月4日
	開館20周年特別展「行け!! 惑星観光旅行」	4月18日～7月4日
黒部市吉田科学館	巡回写真展「自然から学ぶ」	3月26日～4月13日
	佐伯邦夫写真展	4月17日～5月9日
	巡回展:毛利宇宙飛行士の部屋	4月17日～5月30日
富山市科学文化センター	企画展示「自然観察スケッチ展」	2月21日～3月14日
	写真展「すばらしい自然を」	3月21日～4月4日
いしかわ動物園	特別展「アニマルウォッチング―野生動物を追う」	3月17日～5月5日
佐久市子ども未来館	開館3周年記念特別企画展「音と振動の不思議探検」	2月21日～5月9日
岐阜市科学館	巡回展「電気と光のおもしろ実験工房」	1月10日～3月31日
	春の特別展「春の星祭り」	3月13日～3月31日
中津川市鉱物博物館	私の展示室「道具の原点 石器」	12月14日～3月28日

開 催 館	展 覧 会 名	開催期間
東海大学自然史博物館	リニューアル2周年記念特別展「くびなが竜がやってきた！」	1月2日～4月5日
ディスカバリーパーク焼津	特別展「コウモリさんの超音波」	3月16日～5月9日
浜松科学館	植物画（ボタニカルアート）展	2月27日～3月21日
	「発明とアイデア展」	4月17日～4月18日
豊橋市自然史博物館	収蔵資料紹介展「標本となったせきつい動物」	2月14日～4月4日
トヨタ博物館	企画展 クルマとアート「瞬間（とき）を刻むペーパーアート～太田隆司の技の世界～」	12月16日～3月7日
鳥羽水族館	特別展「ファインディングニモ in 鳥羽水族館」	11月31日～3月31日
	特別展 ボーンズ博士のホネ研究所「わしゃ戻ったゾ！」	2月14日～11月7日
滋賀県立琵琶湖博物館	「滋賀の植物標本と写真展一村瀬忠義植物コレクション」	3月9日～4月4日
きつづ光科学館ふおとん	春休み企画展「ニュートリノ」展	3月13日～4月4日
兵庫県立人と自然の博物館	企画展「ワンダフルデザイン～自然が魅せるすばらしい形～」	2月14日～5月16日
明石市立天文科学館	「探査機がとらえた土星」展	3月16日～5月9日
福山自動車時計博物館	特別展「科学技術週間」	4月12日～4月18日
防府市青少年科学館	春休みわくわく科学教室	3月27日～4月4日
	企画展「植物展～緑豊かでさまざまな姿の植物たち」(仮称)	4月29日～6月6日
山口県立山口博物館	テーマ展「ふるさとと星もよう」	4月28日～6月13日
あすたむらんど徳島 子ども科学館	第9回企画展「木のおもちゃ展」	3月19日～4月6日
愛媛県立博物館	テーマ展「えひめ生きもの写真展」	2月1日～3月26日
	テーマ展「トンボの世界」	4月1日～5月25日
愛媛県総合科学博物館	企画展「愛媛の漁業」	2月28日～5月9日
広島市こども文化科学館	えんぜるふいっしゅ作品展	3月6日～3月11日
	たのしい工作室一年のあゆみ展	3月13日～4月4日
	創作教室の一年のあゆみ展	3月13日～4月4日
	巡回展：毛利宇宙飛行士の部屋	3月20日～3月28日
広島市交通科学館	企画展「はたらくのりもの大集合 アストムラインのすべて」	1月27日～3月28日
北九州市立自然史・歴史博物館	企画展「博多祇園山笠展」	3月5日～4月11日
	特別展「葛飾北斎展」	4月23日～5月23日
福岡県青少年科学館	特別展「あそぼう！夢ののりもの展」～海・陸・空、そして宇宙へ～	2月14日～4月11日
宮崎県総合博物館	特別展「スポーツの科学」 ー知ろう！さわろう！ためしてみよう！ー	2月28日～3月28日
出水市ツル博物館クレインパーク いずみ	第3回鳥の造形コンテスト作品展	3月20日～5月9日

【リニューアルオープン】

静岡科学館 る・く・る

〔主なコーナー（展示物）〕 常設展示物 60点

〔展示面積〕 2,323㎡（常設展示場）

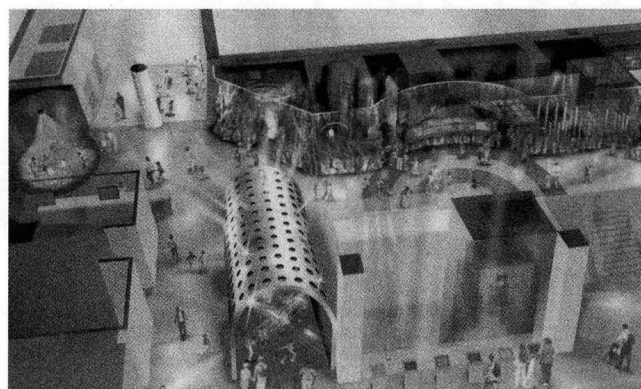
〔オープンの期日〕 平成16年3月21日

〔準備期間〕 平成13年5月（基本計画・実施設計）

平成14年3月から平成16年1月（施工期間）

〔担当業者（展示の設計・施工）〕 株式会社 内田洋行

〔総工費〕 67億9千万円（再開発ビル保留床取得、内装工事・展示工事）



全科協情報

〔奉仕活動・体験活動推進全国フォーラム〕

趣旨：奉仕活動・体験活動の社会的気運の醸成をはかるため

日時：平成16年3月13日（土）11：30～17：00

場所：泉ガーデンギャラリー（東京都港区六本木1-5-2）

主催：文部科学省

問い合わせ：文部科学省社会教育課

Tel:03-5253-4111（内線2416.3080）

〔財福武学術文化振興財団 平成16年度学会・研究集会助成〕

助成対象の分野：歴史学・地理学の分野における学会・研究集会への助成

助成期間：平成16年6月より1年間

応募締切：平成16年4月1日～16年4月30日（当日消印有効）

問い合わせ：同財団事務局 Tel:042-356-0810

<http://www.fukutake.or.jp/science/top/index.html>

ミュージアムの集客を強力にサポート 新たなコミュニケーションメディア【イベントナビ】



イベント情報ポータルサイト

EventNAVI

<http://www.eventnavi.ne.jp>

全国のイベント情報年間約10万件を発信するイベントナビ。
企画展・特別展などへの来場促進に、ぜひご活用ください。

イベント情報
無料登録受付中！

株式会社 乃村工務社

本社：東京都港区芝浦4-6-4 〒108-8565 電話 03-3455-1171
ホームページ <http://www.nomurakougei.co.jp>

ディスプレイおよび建築の調査・コンサルティング
企画・設計・デザイン・プロデュース・演出・制作施工
ISO9001認証取得（文化機構カンパニー）ISO14001認証取得（MCカンパニー）

調査・企画・デザイン・設計・製作・施工・
監理・運営およびコンサルティング・プロデュース

より良い「社会交流空間づくり」にむけて…

株式会社 丹青社

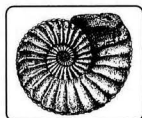
〒110-0005 東京都台東区上野5-2-2 TEL 03-3836-7221(代表)

札幌・仙台・新潟・名古屋・大阪・鳥取・福岡

URL <http://www.tanseisha.co.jp>

TOKYO SCIENCE CO., LTD.

ミュージアム・ショップ向/教育用地学標本



since 1974

地学標本（化石・鉱物・岩石）
古生物関係模型（レプリカ）

大英博物館/恐竜復元模型

●常設ショールーム：紀伊國屋書店・新宿本店1F TEL.03(3354)0131(代表)

髯東京サイエンス

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-8-2 イワオ・アネックスビル

TEL.03(3350)6725 FAX.03(3350)6745

<http://www.tokyo-science.co.jp> E-mail:info@tokyo-science.co.jp



INTERIOR/EXTERIOR/DESIGN/EQUIPMENT

ONY KOBO CO., LTD.

東京都千代田区神田神保町2-7-3 シグマ神保町4階
TEL (03) 3221-1102(代) FAX (03) 3221-1185



動物園/水族館/博物館
企画・設計・施工

省スペース展示に最適な、小型ドームCG映像システム

メディアグローブ、誕生

メディアグローブは世界で初めてフルカラー
投射を可能にした小型・高精細のデジタル
プラネタリウム。さらにドーム全天に高画質な
CG映像を投射するマルチ投射機能を持ち、
さまざまなシーンで活躍します。

▶ 各種イベント等にも対応。レンタルもご相談ください。



コニカミノルタ プラネタリウム株式会社

東京事業所 〒163-0512 東京都新宿区西新宿1-26-2 新宿野村ビル12階 TEL (03) 3349-5301

大阪事業所 〒550-0005 大阪府大阪市西区西本町2-3-10 西本町インテス11階 TEL (06) 6110-0570

東海事業所 〒442-0067 愛知県豊川市金屋西町1-8 TEL (0533) 89-3570

URL: <http://konicaminolta.jp/planetarium/>

全科協ニュース編集委員会

NHK放送博物館 チーフディレクター

河野光子

滋賀県立琵琶湖博物館 企画調整課長

高橋啓一

ミュージアムパーク茨城県自然博物館

資料課長 國府田良樹

独立行政法人国立科学博物館 展示・情報部情報サービス課長 井上透

独立行政法人国立科学博物館 展示・情報部情報サービス課専門職員原田紀子

全科協事務局

国立科学博物館 展示・情報部情報サービス課 村上 剛

Tel.03-5814-9857 Fax.03-5814-9898

発行日 平成16年3月1日

発行 全国科学博物館協議会◎

〒110-8718 台東区上野公園7-20 国立科学博物館内

印刷 島崎印刷株式会社